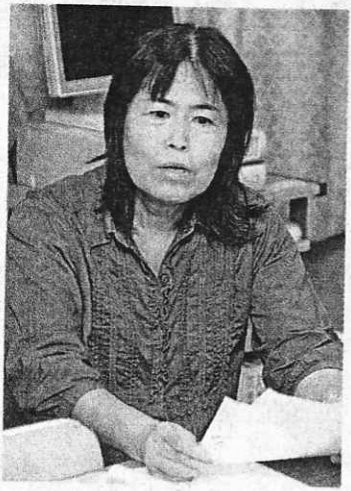
ひとトーク

国際貢献の輪 地域に



東児地区の住民らが発展途上国の支援などに取り組む「AMDA玉野クラブ」の竹谷和子代表(59)＝胸上。「国際貢献活動の輪を地域に広げていきたい」と夢を語る。

クラブは今年4月に発足。「(自分が教諭を務める)東児中生徒による途上国への支援を通じて、住民の国際貢献に対する関心の高まりを感じた」のがきっかけだ。途上国から仕入れた衣類を販売、得た利益を寄付するなど、身の丈に合った国際貢献活動に取り組んでいる。

7月下旬から8月上旬にかけて、ネパール、バングラディシュを訪問。AMDAが現地展開する医療施設、東児中が友好協定を結ぶ学校などを訪ねた。両国の現状を「良くなってきてはいるが、衛生面、医療福祉の問題など、いまだ多くの課題を抱えている。発展に伴い経済格差も広がっている」とみる。

現地の人と接し、国際貢献のあり方についても考えるようになった。「何をするにしてもお金は必要だが、支援を受ける側にもプライドがある。本当に意味のある支援とは何なのか、活動を通じて探っていきたい」

今年末には、住民らを対象に現地ツアーを実施する予定。「まずは地域の人に、国際貢献に興味を持ってもらいたい。少しずつでも、途上国との結びつきを強めていけたら」と話す。

(平松隆)

2009.9.8 山陽 玉野